

平成21年度第1回仙台市環境審議会 議事録

平成21年7月9日(木)

14:00~16:00

仙台市議会第二委員会室

I 次第

1. 開会

2. 議事等

(1) 「杜の都環境プラン」の定量目標及び施策に係る平成20年度進捗状況について

(2) 「杜の都環境プラン」の評価と課題について

3. その他

4. 閉会

II 出席委員数

出席20名

欠席 8名(木村委員、鈴木(力)委員、鈴木副会長、嶋中委員、花島委員、花輪委員、林山委員、間庭委員)

III 議事等

議長(佐藤会長)	議事等に入る。(1)「杜の都環境プラン」の定量目標及び施策に係る平成20年度進捗状況について事務局から説明していただく。
事務局(環境企画課長)	資料1に基づき説明 「杜の都環境プラン」の定量目標及び施策に係る平成20年度進捗状況について
議長(佐藤会長)	説明内容と資料について、何か質問はあるか。
山本(昭)委員	資料1の13ページの「一人当たり二酸化炭素排出量」のグラフでは、最新データは平成17年度となっているが、それ以降の数値は捕捉しているのか。
事務局(環境企画課長)	この数値は、3年に一度行っている調査によるもので、直近の調査が19年度実施のものである。その調査時に国が公表している最新の数値が17年度のものであり、時間差が生じているが、今年度次の調査を予定しているの

	<p>で、18年度、19年度についてはこれから出していきたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>今回の「仙台市の環境」概要版は（案）とあるが、最終版には今年の調査結果は載るのか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>残念ながら、実際の調査は今年度末までかかるため、今回の「仙台市の環境」発行には掲載できないと考えており、17年度が最新という形で出させていたきたい。</p>
工藤委員	<p>このデータについては、昨年度も同じ話があったと記憶している。なるべく新しいデータが出ないと議論ができないので、この点は非常に問題である。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>二酸化炭素の排出量は最新の経済データを基に算出するが、その基礎となるデータが、今でも昨年度分は出ていない。実際の数値が1年・2年タイムラグが出てきてしまうので、その点をご理解いただきたい。</p>
赤祖父委員	<p>仙台で一番二酸化炭素を排出しているものの、上位3つは何か。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>仙台市における部門別排出量は、産業部門が約27%、運輸部門33%、民生（家庭）部門18.4%、業務部門18.2%となっている。産業構造・人口集積など、いろいろな要素はあるが、国全体と比べて、産業部門の数字が低い状況である。逆に運輸部門・家庭部門の割合が高くなっている。</p>
事務局（環境部長）	<p>先ほどの二酸化炭素の排出量の計算方法について補足する。まず、ガソリン消費量や電力消費量などの統計データが、国で発表されるのは基本的に都道府県単位であり、それを市域の単位で把握するために、その数字を切り分ける作業に時間を要する。また、国や県の正確な統計データが出るのがおよそ2年後である。確定値ではなくても速報値を試算することは不可能ではないが、その後、データが動いてしまうことがよくある。そのため、1年半から2年ほどのタイムラグがどうしても出てしまうという状況である。</p>
工藤委員	<p>私のほうでもデータはとっており、他県との出入りもあるので把握が難しいことはわかる。ただ、厳密なものでなくてよいので、去年より今年はどのような傾向があるのか、先ほどの部門別データなども出してほしい。経済のデータから出していたというが、是非切り口を変えて工夫して、仙台独自の数値で、変化量がこうなっていると教えてほしい。精度は高くない推計値でもいいから出してほしい。</p>

事務局（環境局長）	<p>お出ししたものは、「仙台市の環境」という公式な数値を載せる媒体ということで、ご理解いただきたい。次回の審議会に向けて、速報値とは性格が違うが、推計で傾向を示せるようなデータを出したいと考えている。</p>
議長（佐藤会長）	<p>数値の正確さは大事ではあるが、17年度の数値を議論するのも時間のラグがありすぎるというのも事実である。国の数値が遅すぎるのであれば、いろんなところで国に言う必要があるとも思う。私も、国の中央環境審議会の委員もしているの、そこで機会があれば発言してみたい。</p> <p>また、それとは別に、市のほうで何回か調査をして、ある程度の変化分や方向性などが出てきていると思うので、精度が多少落ちてもそれを教えてもらえると、3・4年前のもので議論するよりも直近のもので議論したほうがよいと思われる。吉岡委員、そのような方法はどのくらい可能か。</p>
吉岡委員	<p>概算でもいいからタイムリーなものを出してほしいという要望と、行政サイドとしてきちんとした数値を出したいというジレンマだろう。可能であれば、予測値とか速報値を出し、その後年に正確な数値に変更するという方向で進めてほしい。</p> <p>追加して2・3質問をする。目標値が平成2年度と比較して同じとなっているが、平成2年を基準に減らしていくものではないのか？</p>
事務局（環境企画課長）	<p>この目標値は環境プランで定めたものであり、その後、地球温暖化対策推進計画が別途策定され、温室効果ガス全体の新たな削減目標を定め、目標値も厳しく運用している。そこでの目標値は、平成22年度で平成2年度比一人当たり7%削減としている。12ページの下に記載しているので、ご確認いただきたい。</p>
吉岡委員	<p>それには「温室効果ガスとして7%削減」と書いてある。二酸化炭素の目標が変わっていないとすると、他のガスで7%削減するのではないかと誤解を受ける可能性が非常にある。二酸化炭素について当初と違う新しい目標値があるのであれば入れてほしい。</p> <p>また、一人当たりの二酸化炭素排出量について、何を根拠にしたのかが載っていないので、ガソリンや電力の量から算出していることなどをどこかに書いてほしい。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>今の視点は、今後審議していくためには重要であると考えている。たぶん次回になるが、部門別のデータの推移とかそういうものを提出していきたい。今後新しいプランを作って、市民の皆様にお知らせする際に、より分かりやすいものを提供していきたい。</p>

吉岡委員	<p>表中に、この二酸化炭素が何を示すのかということ括弧書きで書いてもらうだけでかまわない。家庭で使用する電力、輸送で使用するガソリン等のデータを使用と数項目示してもらうだけでもいいので、根拠がわかるようしてもらいたい。</p> <p>併せて、8番目の項目「国の環境基準」について、5ページのグラフには環境基準の線がない。見た人が環境基準をクリアしているのかどうか判断ができないと思うので、書き込めるのであれば環境基準を記載してほしい。</p> <p>また、12ページの表で達成している目標には○をしていて、達成していない目標については記載がないが、今後どのような対応をしていくのか、どこかにそれをわかるような形で載せてほしい。</p> <p>それと、28ページにごみ焼却の余熱利用とあるが、ごみ焼却施設はエネルギー効率の目標を定めていると思う。目標に対しての数値を示せば、有効性がわかるのではないかと思うが、出せるのであれば出してほしい。</p>
事務局（環境局長）	<p>この冊子はこのスタイルで10年くらいやってきてはいるが、このプラン自体が策定から長い時間を経て、力点が変わっている部分もある。施策をどのように変えていくのか、仙台市の環境白書的なものとしても、どのように変えていくのか、検討が必要である。2009年は過度期に当たるため、大幅な変更は来年度以降とさせていただきよう、ご理解を願いたい。</p>
事務局（環境対策課長）	<p>5ページのグラフについて説明する。お渡ししているのは概要版であり、別途もう少し厚い本編があるのだが、環境基準の比較については本編には詳細に載せている。概要版の5ページには、仙台市全体の経年変化をご覧いただく趣旨から「測定結果の平均値」を使用しており、環境基準の評価の基準は平均値ではなく、例えば、二酸化いおうでは「365日分の日平均値の上位2%を削除した2%除外値」、光化学オキシダントでは「1時間ずつ測定した値の昼間の最高値」で評価するなどの違いがある。つまり経年変化を比較するための値と環境基準の評価のための値とでは使用している値の意味合いが異なるため、5ページの経年変化の表には環境基準の線は入れることはできない。</p> <p>大気環境基準の達成状況については、4ページに色別に載せている。概要版では○×でしか分からないが、こういった形でお知らせしているという状況である。</p>
吉岡委員	<p>それであれば、平均値を出している意味はないのではないか。要するに、環境基準は、ある地点でスポット的に数値をクリアしていればいいもので、それらを全部総合して平均して出しているのが右の図ということではないのか。</p>

事務局（環境対策課長）	<p>4ページの図は2%除外値であるとか最高値などで評価した環境基準の現状評価である。大気汚染の測定結果について、365日24時間のすべての地点の平均値が5ページであり、そもそもの値が違うということである。</p> <p>私どもとしては、仙台市全体の状況を全部経年的に示すのであれば、全体の平均値のほうがふさわしいと思い掲載しているところである。</p>
議長（佐藤会長）	<p>この件は、少々専門的になりすぎるし、先ほど局長からあったように、かなりの年数このスタイルで来ている。来年度以降新しいプランができて、報告するスタイルも当然検討することになると思うので、今年度版については、いくつか直すところは直すけれども、今までと大きく変えるのは無理と思うので、委員の方々いろいろご注文はあるかと思うが、次のプランに対していろいろご意見いただく中で吸収させていただきたい。</p> <p>今の平均値と環境基準の話も、これ以降出すものについて、何か考えていただくということで、今回は今までのスタイルを踏襲しつつ直せるところは直すということで、よろしいか。</p> <p>進行の都合上、次の議題に進みたいが、この議題について他にご意見はあるか。</p>
工藤委員	<p>12ページ・13ページの低公害車について、これは仙台市の公用車や公共交通に使っているバスとかそういう区分のものと捉えてよろしいか。</p>
事務局（環境対策課長）	<p>そのとおりである。</p>
工藤委員	<p>仙台市全体としてのこういうものはまだ把握できていないようだが、そこがゆくゆくは目的になるだろうと思う。</p>
赤祖父委員	<p>28ページに新エネルギーの導入とあるが、これは他のエネルギーと比べて、どのくらいのパーセンテージになるのか。</p>
事務局（環境部長）	<p>仙台市内で使われているほかのエネルギーと比較しては把握していない。比較のためには、事業者の方から提出してもらわねばいけない情報もあるので、新たなプランを策定するにあたり、そのような情報を速やかに行政のほうに提出いただける仕組みも、併せて審議していただきたいと考えている。</p>
議長（佐藤会長）	<p>それでは、もうすでに次のプランに関連する話も多かったが、議題の（1）はこれで終わりとする。</p> <p>続いて、（2）「杜の都環境プラン」の評価と課題について、説明を事務</p>

事務局（環境企画課長）	<p>局にお願いする。</p> <p>資料4に従って説明。 「杜の都環境プラン」の評価と課題について</p>
議長（佐藤会長）	<p>既に前の議題でも次回のプランに向けての意見もあったが、そういうものも含めてよろしいが、今の報告について皆さま方からご意見をいただきたい。</p>
吉岡委員	<p>資料4の最後の52ページに「法令や国等の施策動向への対応」とあるが、受身的なイメージなので、むしろ仙台市として「働きかける」などの積極的な意味合いで捉えてほしい。</p> <p>また、次回のプランにも関わるが、エコビジネスへの支援とか、環境保全に寄与する産業の振興というところで、今ある環境を維持していくようなスタンスだったが、加えて、地域産業をどのように生かしていけるかという視点で、環境保全事業を既存の産業とうまく結びつけた形で、新たな環境技術開発とか、産業の振興というのができないか、地元の企業とリンクした形の新しい産業の創出といったものを、次のプランの検討事項に加えてほしい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>積極的な意見でありがたい。他にはどなたか意見はないか。</p>
工藤委員	<p>吉岡委員と方向は同じ意見である。</p> <p>現在のプランの表現に縛られているものがある。例えば、21ページ「地球環境の保全に『貢献する』」は、10年前ならいいが、今はこれでは間に合わない。それから、36ページに「排出源対策に工場の…」とあるが、私自身が長く仙台でものづくりに関わっているが、環境に悪いということで工場がみんな追い出された歴史がある。仙台市のものづくりはかつてのような重厚長大のようなものはない。環境局の目線ばかりではなく、経済局とも連携し、企業の実態を汲み取って進めてほしい。</p> <p>各論に入るとネガティブな各論があるし、10年前に作られた計画の延長線上で目標達成できなかったものなどの課題があるが、それらにだけとらわれていくと、将来のグランドデザインは描けない。理想的なこれからの仙台の社会は、どうあるべきか、先ほどから説明に出てきたコンパクトシティというのは、どこを指すか、都心部だけでなく、老いた団地などもどうするのか、まずグランドデザインを市民にわかりやすく提示して、進めていってほしい。</p> <p>環境局の今の権限だけでできないものもあるので、どのように仙台市として位置づけていくのか、そこから始まると思うので、よろしくお願ひしたい。</p>

議長（佐藤会長）	大分踏み込んで、次のプランに参考になる意見だった。他にはないか？
矢野委員	この27及び31ページの評価の中で、森林・農地が面積で評価されている。最近言われているように、森林とか農地の管理が行き届かなくなった、質が低下してきたということもある。次のプランについてはその「質」のこと、そして、仙台市は木質バイオマスなどもとてもいい資源を持っているので、バイオマスの利活用についても次期プランに入れてほしい。
議長（佐藤会長）	次のプランに対するご意見が多いが、今までの評価についても意見をいただきたい。市役所で気づかない視点があったら、ご指摘いただきたい。
山本（玲）委員	<p>この評価の中で、農地の低減傾向に対してこれは問題だといっているだけで、どうすればいいかがない。私はいろんな小学校を回る機会があるので、いろんな地域の実情を見る機会がある。どんどん農地法などでお金をつぎ込んだ土地が市街化調整区域になり、転用されている状況がある。それを、ただ減らすのをやめようというだけでいいのか、ということになる。</p> <p>先ほど農政局から、質の問題が出ていたが、例えば、仙台市では緑は十分だとしているが、この十分だといっている質はどうかと考えると、仙台市そのものが、ある意味でのドーナツ化現象になってきている。もし次の計画を立てるときは、地域的な動向を押さえた上で、数値目標を立てていただきたい。目標値を設定するときには、地域の経済的な動向とか、他の部署との関連が必要だと思うので、連携した形で現状を評価した上で次のプランに移るべきで、その視点が少々足りないと感じる。</p>
中屋委員	<p>はじめの「計画体系等」の中に、その他の関連計画の例という形で、東西線沿線まちづくり基本方針等とあり、大きな視点で見ていこうとなったことはとてもいいことである。</p> <p>ただ、東西線で言うと、マイナス面の報道が多い。長い見通しを持っていくと、こういう交通体系になり、シミュレートしたらこういうことが可能になるなどということが、あまり聞かされていない。二酸化炭素の削減からはどうか、都市計画の面ではどうかなども含め、市民にこういう数字になるんだよと示すビジョンがなければ、自然破壊になると感覚に訴えられると、市政として説得性がないのではないかと思う。環境の問題についても同じことで、こういうプラス面があるから、お金を支出するのだということを、是非知りたい。</p>

吉岡委員	<p>ここで関係するかどうかはわからないが、校庭の緑化ということは評価の中にに入れてもいいのではないかと。1つの紹介としても、いいのではないかと。是非検討いただきたい。</p>
伊藤委員	<p>2点、質問とお願いをしたい。</p> <p>1つは、循環型社会の構築と掲げられているが、非常に大きな問題を抱えているので、どんな循環型社会を目指していくのかということのを、もう少し明確にしてほしいということである。</p> <p>もう1つは、仙台市は山岳地帯から仙台湾まで非常に大きなエリアをカバーし、中心部に大きな都市があるという特徴がある。そういう都市であって、「杜にまなび、杜といきる」という目標を掲げているが、そういう特徴を持っているということのを、是非市民にわかるように示していただきたいということである。</p>
事務局（環境部長）	<p>循環型の社会づくりが大変難しいということは理解している。</p> <p>実は、当初このプランを検討したときは、廃棄物とか資源などの物質だけでなく、大気・水・エネルギーの循環まで含めて、杜の都・仙台が山から海までいろんな循環あるいは浄化作用を持っているという意味で、前藤井市長が「杜にまなび、杜といきる」という全体の都市像として掲げたものである。</p> <p>そのような意味では、今お話いただいた部分も含め、哲学・理念をどのようにうまく市民の皆様へ伝えるかということのを、次回以降また深く議論していっていかねばと思う。</p>
事務局（環境局長）	<p>3人の委員のお話に対して、私のほうでできる範囲でお答えする。</p> <p>まずは、山本委員の農用地の転用だが、仙台市の場合は厳しい基準で取り扱っている。最近では認められているのは東西線のまちづくりに必要などころだけである。逆に住宅地への転用が認められていても逆に調整区域に戻ることもあるので、この点については比較的良好に守られていると思う。</p> <p>次に中屋委員の東西線のまちづくりに関して、実は内部でも、巨額の投資で環境負荷の少ない公共交通機関を整備するのに、市民の皆さまへのPR等が足りないと議論になり、反省している。次期環境プランを検討の計画期間の半ばの平成27年に東西線が開業するので、環境局所管の事業だけではないが、いろいろな問題についてもご議論して参りたいと考えている。</p> <p>それから工藤委員、吉岡委員の環境産業に関する視点だが、私どもも重要な視点だと思っている。いろんな難しい面があるが、LEDを含めて蛍光灯などで非常に環境に熱心で技術を持っている地元会社があるので、そういったところとのコラボをどうするかということのを、経済セクションとも常に連携を取りながら進めている。</p> <p>次の環境プランの終期は、市の新しい基本計画と同じ2020年度ごろに</p>

	<p>なると思うが、国の目標である温室効果ガスの15%削減目標も市役所自身でも進めなければいけないと考えている。次のプランは、今の現計画とは相当違った物の見方になっていくと思う。来年度まで審議会場でご議論賜って、議会の審議もいただきながら、平成23年からの実施になるが、それに先駆けて今年度・来年度からできるものは、国の財源措置もあるので、小さなものからでも実施していきたい。そういった意味で短期的にできるものでも、皆様からご助言を賜りたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>他にこの評価、今後の課題について、ご意見はないか。</p>
戸谷委員	<p>作り方そのものについての感想だが、評価があまりにも定性的な書き方ばかりである。単年度の「仙台市の環境」を集約したものがここに入ってくると思うが、この評価と課題を基にして次のプランを作るには、定量的な数値が少なすぎる印象を受ける。</p>
事務局（環境部長）	<p>少々言い訳になるが、当時は自然環境を犠牲にしてのゴルフ場開発や大規模開発とかフロンの問題等々、今の問題とは大きく違った状況があった。また、初めてのプラン策定で、指標・目標も非常に見極めが難しい状況であった。証拠を示し将来の動向も示し、評価をして、次に結びつけなくてはならないと、今日はたくさんそのような指摘をいただいたと考える。</p> <p>ただ、今回はこのプランが「もしなかったなら」という視点でも評価しており、条例ができたり、計画ができてきたりということで、守られてきた部分があるということを紹介した。ようやく体制作りができて、地球環境問題に直接都市がアプローチできるようになったことを考えると、今後さらに議論させていただきながら、市民の方々にわかりやすいように、きちんと証拠も示しながら、ステップアップしていけるようなプランにして参りたい。是非、今後も今日のような忌憚のないご意見を賜りたいと考えている。本当に定性的なものが多いということは重々承知しているが、どうぞご理解を賜りたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>実はこのプランは、私自身取りまとめをお手伝いさせてもらった。いろいろ思うところはあるが、1つだけ言わせてもらえば、中間評価を入れなかったのが反省点である。この10年の間に、今まで議論に出てきたように状況が変わっていたが、新しいものに舵が切れるような仕組みにできなかったのが、考えてみると十分でなかったと反省している次第である。</p> <p>多分、秋以降に次回のプランの諮問が始まって、本格的な議論を行っていくことになると思うが、それに先んじて皆様からいろんな意見を伺うことができたというのは、非常に貴重な機会だったと思う。</p> <p>最後に「その他」として、事務局のほうから何かあるか。</p>

事務局（環境企画課長）	ただいま会長からあったように、秋口、10月下旬をめどに、次の審議会を開催予定であり、その際に次期計画について正式に諮問し、ご議論を進めていただきたいと思いますと考えている。
議長（佐藤会長）	これで、平成21年度第1回の仙台市環境審議会を閉じさせていただく。

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

平成21年 9月 7日

仙台市環境審議会署名委員

会長

佐藤 洋



委員

工藤 昭夫

